

## 寄稿（全国・県内で活躍する選手より）

- 大同特殊鋼 末松 誠 監督
- 豊田合成 米本 拓也 選手
- トヨタ車体 渡部 仁 選手
- 広島メイプルレッズ 増田 寛那 選手
- 大同特殊鋼 久保 侑生 選手
- 湧永製薬 新名 亮介 選手
  
- 県立雄城台高校 恩塚 賢宣 選手
- 県立情報科学高校 川上 真衣 選手
  
- 市立 滝尾中学校 山本 晃大 選手
  
- 下郡ハンドボールスポーツ少年団 利光 良介 選手



## 全国で活躍する大分県出身ハンドボーラー



大同特殊鋼 末松 誠 監督

別府市の中学校から、名門大分国際情報高校へ進学しハンドボールと出会う。同級生には、スーパースター宮崎大輔がいた事が刺激となり努力し続けた日々の結果が、国士舘大学をへて大同特殊鋼へ入団！

すばらしい活躍と、人望の厚さから全日本キャプテンとして大活躍を果たす結果となる。

今シーズンからは、選手兼監督と2足のわらじを履いてチームを牽引し続ける大分のスターである。

大分県ハンドボール協会創立50周年おめでとうございます。

私は、高校から大分国際情報高校（旧：大分電波）でハンドボールを始め、現在は愛知県の大同特殊鋼で監督をしています。皆さんは、日々の練習の中で楽しいことや苦しいことがあると思いますが、大分県出身として皆さんを応援しています。

是非、将来は全国で活躍する選手を目指して下さい。



豊田合成 米本 拓也 選手

鳥取県より、強豪大分国際情報高等学校の門をたたき「全国高等学校選抜大会」に於いて優勝の夢を見事かなえ、国士舘大学へ進学！

卒業後、自ら豊田合成へビデオを送りトライアウトにて入団を認められた選手！

自分の夢に向かって、前向きにひたすら努力を惜しまない姿は、子供達の夢へ向かうチャレンジ精神のお手本です。

この度は大分県ハンドボール協会創立50周年おめでとうございます。

私は鳥取県出身ですが、夢（日本一）を叶えるため、大分国際情報高校に進学しました。富松先生を始めとする、本県ハンドボールに関わる全ての方々に支えられ、在学中には「日本一」という夢を叶えることができました。

今後も本県出身選手の名に恥じぬよう、精進していきたいと思っております。

最後になりますが、大分県ハンドボール協会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



### トヨタ車体 渡部 仁 選手

大分舞鶴高校ハンドボール部出身！

日本大学時代は、1年生からレギュラーを勤め関東春・秋リーグ戦・インカレと1年生時から数々の個人賞を獲得した。

アカデミーの育成選手として世界で活躍！

182cm 左利き 今シーズンJHL新人賞有力候補選手で、新生全日本代表候補選手！

誇れる舞鶴高校の星である！

大分県ハンドボール協会創立50周年おめでとうございます。

明野西小学校からスタートした私のハンドボール人生は明野中学校、大分舞鶴高校、日本大学、そして現在のトヨタ車体ブレイブキングスと順風満帆な人生を送れています。これも小中高と大分県で出会えた恩師の方々のご指導やチームメイトの支えのおかげです。これからも大分県の誇れる選手、恩師の誇りである選手を目指し日々精進していきます。



### 広島メイプルレッズ 増田 寛那 選手

鶴崎高校時代は、U-20 代表として世界学生選手権アジア予選に出場！ 大阪教育大学へ進学して、その世界学生選手権大会に出場し活躍した。また、インカレ優勝にも大きく貢献し大型新人の期待を受けてメイプルレッズに入団した。

長身を活かしたプレーで、近い将来全日本入りを期待されている。

お茶目な笑顔が可愛いプレイヤー

この度は、大分県ハンドボール協会創立50周年おめでとうございます。

私は、明野北小で二年生からハンドボールを始め、現在に至るまで三度の全国優勝を経験する事が出来ました。それも、小学校の頃からハンドボールを行う事のできる環境を作ってくれた大分県ハンドボール協会のおかげだと思っています。

今後も大分県を盛り上げて行けるよう日々精進し、後輩達にもハンドボールの楽しさを伝えて行きたいです。



## 大同特殊鋼 久保 侑生 選手

小学生の頃より長身で、県協会期待の星！  
名門大分国際情報高校へ入学すると頭角を現し  
3年生時 U-19 日本代表として世界で戦う。  
その後、筑波大学へ進学 U-21・U-23 と代表を  
経験し大同特殊鋼へ入社。

昨年の JHL では、見事新人賞を獲得！  
今シーズンもチームの守護神として活躍し新生  
全日本代表 GK 候補として頑張っている。

この世代 NO.1 の称号を受ける GK。

### 『私を育ててくれた大分県』

大分県ハンドボール協会創立50周年おめでとうございます。

私がハンドボールを始めて14年、富松先生をはじめ多くの指導者・関係者の皆さまからご指導いただき、現在は日本のトップリーグでプレーすることができています。

私が大分県でプレーをした8年間は、一つ一つの大会が思い出となり残っています。

小学校4年生の時に初めて試合に出場した全国大会予選、選手宣誓をした5年生大会、6年生の九州大会3位決定戦で延長戦の末1点差で負けた試合、中学校では明野中男子初の全国大会出場、高校では3年時に九州大会春夏連覇・インターハイ3位と今の私にとって、どれも大切な思い出となりまた財産となっています。

大分国体では故郷選手として地元国体に参加することが出来、選手としてまたとない経験をしました。

現在は大同特殊鋼という日本のトップチームでプレーすることができているのも、この一つ一つの大会があったからこそだと思います。

私が小・中・高校生の時に夢を与えてくれた選手のように、今度は私が大分県はもちろんの事、全国の子供達に夢を与える立場となりました。

いつまでも子供達の輝ける存在であるのはもちろんの事、私自身の夢である【オリンピック出場】を果たし、私を育ててくれた大分県ハンドボールの皆様に恩返しができるよう、これからも努力することをこの50周年記念誌で誓い、私の大分県ハンドボール50周年記念の挨拶とさせていただきます。



## 湧永製薬 新名 亮介 選手

明野中学時代は、エースとして2年連続全国大会出場の原動力と成る活躍を見せた。

また、大分国際情報高校3年生時は、日韓中親善大会の学生日本代表選手として出場！

日本体育大学4年生時の全日本総合では、湧永製薬に逆転勝利し3位入賞を成し遂げる活躍を見せた中心選手。

大分県ハンドボール協会創立50周年おめでとうございます。

私は、明野北小学校・明野中学校・大分国際情報高等学校・日本体育大学・湧永 LEOLIC というハンドボール人生を歩んできました。素晴らしい恩師や、最高のチームメイトと出会う事ができ今の自分があると思っています。

また、大分県は何人もの実業団選手を排出しています。小さい頃から、野村広明さんや宮崎大輔選手・末松誠選手などのプレーを見て刺激を受けながら目標にして頑張ってきました。今では、その目標としていた偉大な先輩方と同じステージに立ち、湧永 LEOLIC という看板を背負ってコートの中でプレーする立場にあります。

これからは、私が小さい頃に目標にしていた先輩方の様に大分県のハンドボーラーから目標にされるような選手を目指して頑張っていきたいと思います。

題名 岐阜清流国体 第3位に於て学ばせてもらったこと



私は、大分雄城台高等学校で3年間ハンドボールを  
続けてきて、多くのことを学ぶ経験してきました。  
その中でも特に、仲間の大切さと何事にも最後まで  
諦めないことの大切さを学びました。全国選抜大会  
では、1点差で初戦敗退し、インターハイでは、ベスト8  
まで行きました。私は特にインターハイでの全国制覇に気持ち  
を入れていました。しかし負けてしまい、その際自分のけがのせい  
にしたり、自分の力不足に泣いたりしてしまいました。  
その時、先生をはじめとするチームの仲間が励ましてくれ、  
次の国体で全国制覇しようという気持ちを切り換えることが  
できました。国体の準決勝では負けてしまいましたが、  
3体決定戦では自分達の最高のプレーをして高校生活  
最後の試合に臨もうという気持ちを揃えていきました。  
試合は立ち上がりから相手のペースで、最大10点もの差を  
つけられてしまいました。しかし、3年間培ってきた精神力で  
今まで自分達のやってきたことに自信を持ち、さらに誰も諦めない

1本1本最後まで、最高のプレーを目指して試合に挑み続けました。

そして後半残り10分、5点差を叩かれ負けている状態から

泥臭く奮闘に1点をとる身持ちで粘りのあるプレー

をして、1点差で勝利することができました。

そこには、お互い支え合った仲間や先生方、応援して

くれた方々の存在、また、最後まで誰一人諦めずに

戦い抜いたことがあったからだと思います。

これから私は、この経験を今後の人生の中で生かし、

将来は中学校の教員として大分県のハンドボール

普及に貢献してきたいと思っています。



題名 U-16 日韓スポーツ交流に参加して。



私はU-16日韓スポーツ交流に参加させていただき、特別にも  
キアールも成長することができました。私は、今まで何回も連続失点で恥  
気持ががしかなかったし、お叱り直りもありませんでした。その中で韓国の方  
のときは、後半まで粘り続けてやられた逆点負けしてしまいました。  
なので、日本の方までキアールも強くするということに、対策などを  
学び、自分を追い込み、少しキアールが強くなったと思います。  
そして、日本ラウンドでは前半、流れも韓国に流してしまいました。  
しかし、私たちは日本チームも必死に粘り韓国に逆点で勝つことができました。  
今回、私が日本代表として学んだことは、流れが悪くても負けじと  
粘り続ける、絶対負けはないという気持ちがまた一つもより良  
いプレーができるということです。今後の自分のハンドボール人生において、  
とても良い経験を積む事ができました。  
今まで私を育ててくれた監督、コーチにたいさん感謝しています。  
今回の合宿はとても素晴らしい2週間でしたが、成長することができて  
とても自分の為になる良い合宿でした。

題名 第7回春の全国中学生選抜大会に優勝して



僕は小学7年生の時に兄と一緒に古谷先生が監督の下郡ハムに入ったのが、  
きっかけで今があります。ハムを始めて10年目になります。

滝尾中学校が新チームになってからの目標は春中で「優勝」する事でした。

昨年からのメンバーも多く残っていた事もあり、チームワークは良かったです。

念願の春の全国大会の1回戦目は見前(岩手)でした。

自分達の持ち味である個人技を活かし、仲間と常に声をかけながらプレーをしました。

2、3回戦と順調に勝つ事が出来ました。4回戦目のはとり中(愛知)は、この

大会一番の難関でした。DFの連携がすごく、マークも厳しくて、シュートを思うように

打たせてもらえず、苦戦の前半でした。後半は周りを意識して、集中力を高めてポストや

サイドからのシュートで得点でき、試合の流れを変えるきっかけとなり大きな自信と

はりました。楽な試合は一つもありませんでしたが、決勝まで来た時は

応援団とベンチと僕達が一つになれた、あの空気感は今でも忘れません。

それも今まで指導してくれた先生方、応援してくれた全ての方々のおかげだと

感謝しています。ありがとうございました。

高校にはいっても大舞台で活躍できるように頑張ります。

将来は日本を代表するプレーヤーになります。

山本晃大

題名

全国制覇

利光 良介



ぼくたち下郡ハンドボールスポーツ少年団は、  
今年の夏、京都で開催された全国大会で日本一になる  
ことが出来ました。昨年はベスト8で負けとてもやしい  
思いをしました。それから1年間、厳しい練習を積んで  
来ました。2度目の京都の夏。今年で最後だ。絶対に  
優勝するぞという気持ちで、1試合、1試合、大事  
に戦っていきました。準決勝の相手は沖縄県の  
神森小。相手は、とてもスピードのあるチームだったので  
ぼくたちも必死で戦いました。結果は1点差勝ち。  
均差の勝負でした。決勝戦は富山県の窪  
スポ少で一番心に残っているのは試合の最後でも  
残り1分で追いつかれた時、絶対に負けたくないと思  
いました。最後のぼくたちの攻撃で、ぼくにパスが回ってきた時  
サイドの主直なら必ず決められると思ってパスを出しました。  
主直が決めた時は本当にうれしかった。優勝が決まった時  
うれしくてみんな泣きました。ぼくはこのチームでハンドボールが出来た良かたです。

